

同志社大学
2023年度 卒業論文

「他者に対して性的に惹かれない」アセクシュアルの不可視化と葛藤
—アセクシュアル当事者の語りを通して—

社会学部社会学科
学籍番号 1109201014
氏名 林来美
指導教員 立木茂雄教授
(本文の総字数 23324 字)

要旨

近年、ダイバーシティが進展していくにつれて世界的にセクシュアルマイノリティが注目を浴びてきた。しかし、「異性を好きになるのは当然だ」という考え方は批判されてきたが、「他者に性的に惹かれるのは当たり前だ」という社会通念に疑問を抱かれることはなかった。「他者に性的に惹かれない」セクシュアリティであるアセクシュアル当事者へのインタビューを通して、当事者の感じる多様な生きづらさをインターセクショナル리티の視点を用いて明らかにした。生きづらさの要因は恋愛的指向や性別など、さまざまな要素が交差しているが、根本にはロマンティックラブ・イデオロギーの考え方や、恋愛関係と性行為はイコールであるといった社会通念が考えられた。この考えはアセクシュアルの存在を不可視化しており、セクシュアルマジョリティは社会の当たり前を考え直し、多様なセクシュアリティの存在を認知することが求められている。

キーワード

アセクシュアル, セクシュアルマイノリティ, インターセクショナル리티

目次

はじめに	1
1 恋愛、性愛に対する社会通念.....	1
1.1 ロマンティックラブとコンフルエントラブ	1
1.2 恋愛伴侶規範性	2
2 「性」の多様性.....	2
2.1 セクシュアルマイノリティ	2
2.2 アセクシュアル	3
2.3 アロマンティックアセクシュアルとそのほかのアセクシュアル	3
2.4 インターセクショナルリティ	5
2.5 インターセクショナルリティの視点から見るアセクシュアルの生きづらさ	5
3 方法.....	6
3.1 概要	6
3.2 詳細情報	6
3.3 調査にあたっての留意点	8
4 アセクシュアル当事者の語りとその考察.....	8
4.1 アセクシュアル当事者の感じる生きづらさ	8
(1) 恋愛関係でのすれ違い	8
(2) 周囲からの無理解による無意識の不配慮な言葉.....	11
(3) 社会通念.....	13
4.2 生きづらさへの対処と諦め.....	15
4.3 アセクシュアル当事者が求めること	18
おわりに	20

はじめに

近年、ダイバーシティが進展していくにつれて世界的にセクシュアルマイノリティが注目を浴びてきた。2015年に発表された同性パートナーシップ制度、2023年に入ってからLGBT理解増進法（L：レズビアン、G：ゲイ、B：バイセクシュアル、T：トランスジェンダー）が可決され、世界でもトランスジェンダーのスポーツ選手が議論になるなど、注目されているが、世間一般的に注目されているのはLGBやTであり、セクシュアルマイノリティは恋愛や性愛が他の対象に向いていることを考えられがちである。セクシュアルマイノリティが注目を浴びるにつれ、「異性に惹かれるのは当然である」という社会通念は批判されてきたが、「他者に対して恋愛感情を持つことは当たり前」、「他者に対して性的に惹かれることは当たり前」という考えに疑問を抱かれることはなかった。これに対して、「アセクシュアル (asexual)」という性的アイデンティティを表すカテゴリーが用いられている。アセクシュアルの定義としては、「性的惹かれ (sexual attraction) を経験しない人」(The Asexual Visibility and Education Network 2023)という定義が頻繁に使われており、本論文では、「他者に対して性的欲求を抱かない/性的に惹かれない」と定義付ける。セクシュアルマイノリティが社会的に注目を集める中、アセクシュアルの存在や言葉の意味は広く認知されておらず、いわば、マイノリティの中のマイノリティであると考えられる。

私自身もアセクシュアルであることから、カミングアウトした際に存在自体を否定されたり、理解されなかったりと、生きづらさを感じる場面が多くあった。しかし、その要因は様々な要素が交差して生まれるため、一口に「セクシュアルマイノリティとしての生きづらさ」や「アセクシュアル一般の生きづらさ」だけでは語れないものであった。

そのため、本研究では様々な要素が交差するインターセクショナル리티の視点をを用い、アセクシュアルの生きづらさについてインタビュー調査から明らかにする。

1 恋愛、性愛に対する社会通念

1.1 ロマンティックラブとコンフルエントラブ

アセクシュアルの生きづらさの一つに、「他者に対して性的に惹かれることは当たり前」という社会通念があることが挙げられる。その社会の考え方にはロマンティックラブ・イデオロギーが関係していると考えられる。よって本節では、ロマンティック・ラブと、近年移行しつつあるとされているコンフルエント・ラブについてふれる。

ロマンティックラブ・イデオロギーとは社会学上の概念であり、恋愛・結婚・出産が三位一体として捉えられている。日本では近代以降の恋愛において「欧米の近代を特徴づける性規範で、近代社会の親密性の領域を編成する原理となった。それは「愛するがゆえに結婚する」、つまり婚姻において愛と性が一致することが唯一の正しい性行動である、と説く」(吉澤 2012)と定義されている。しかし、本来個人の自由を保障するものであった恋愛を結婚という社会制度と結び付けたことで、女性にとって「家庭生活への容赦ない隷属をもたらしていった」(Giddens 1992=1995: 96)と批判されている。このイデオロギーは、女性だけを縛ったわけではなく、それまで一部の人にしか求められなかった恋愛を全

ての人に必須のものとし、恋愛をしない人やできない人の存在をないものとしてしまったと考えられる。

近年ではこのロマンティックラブ・イデオロギーは終焉に向かっていると考えられており、ギデنزが能動的で偶然発生的な愛情である「一つにとけあう愛情（コンフルエント・ラブ）」に移行しているとした。コンフルエント・ラブは異性愛に限定されない愛情であり、永続性ではなく「特別な関係性」が重要視される（Giddens 1992=1995）。

ロマンティックラブ・イデオロギーからコンフルエント・ラブへの移行は簡単なものではなく、さまざまな要素が絡み合い、今は草食化に移行しているとも言われている（中西 2018）。

1.2 恋愛伴侶規範性

異性愛を前提とされているロマンティックラブ・イデオロギーの概念にも見られる「異性愛規範（hetero-normativity）」のほかに、「恋愛伴侶規範性（amato-normativity）」がある。恋愛伴侶規範性は、アメリカの哲学者エリザベス・ブレイクによって提唱された概念であり、「中心的で排他的な恋愛関係こそが人間にとって正常であり、また普遍的に共有された目的であるという想定、そしてそのような関係こそが規範的であり、他の関係のかたちよりも優先して目指されるべきであるという想定からなっている」（Brake 2012=2019: 157）。三島がおこなった「アロマンティック・アセクシュアルスペクトラム（以下 Aro/Ace）」の当事者を対象にしたインタビュー調査では、(1)「恋愛」が性や同居に結びつくものとして規範化され、さらに (2) 恋愛が普遍的な理想とされ、また (3) 恋愛関係が他の関係性よりも価値のあるものとされることにより、(4) 恋愛／婚姻以外の支援関係が周縁化されることが示唆された（三島 2023）。このことから、日本では「一人の特別な人と恋愛をして、結婚をして、一生を添い遂げることが幸せ」というような考え方が多く見られることが考えられる。

2 「性」の多様性

2.1 セクシュアルマイノリティ

セクシュアルマイノリティは、『はじめてのジェンダー論』によると、性に関連して、普通とされる男女のあり方から何らかの点で逸脱したとみなされる人々を意味している（加藤 2017）。ここで言われている性とは、性自認と性的指向を主に指し、普通とされる男女のあり方という表現は、戸籍上の性別と性自認が一致している異性愛者のことを指す。広義では、LGBTQ+がセクシュアルマイノリティを代表する言葉として使われている。

LGBTQ+は、レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（心と出生時の性別が一致しない人）の頭文字に、自身のセクシュアリティがどのようなものか悩んでいる、または意図的に決めていないクエスチョニング、セクシュアリティ全般を表すクィアの頭文字である Q と、ほかにも多くのセクシュアリティがあることを示す+を付け加えたものである。もともと LGBT という言葉が多くメディアで取り上げられ、存在が広く認知されていった。しかし、「LGBT」と「セクシュアルマイノリティ」が同義で使われることも増え、LGBT 以外のセクシュアルマイノリ

ティが隠されてしまったことから、近年では積極的に LGBTQ+ が使用されている。

しかし現在、性には性自認と性的指向以外に、身体的性と性表現を含めた 4 つの性があるとされており、セクシュアリティを理解する上で欠かせない概念であるとされている。性自認と性的指向を指す言葉が SOGI (Sexual Orientation & Gender Identity) とされ、SOGI に身体的性と性表現を加えた言葉が SOGIESC (Sexual Orientation & Gender Identity, Gender Expression, Sexual Characteristics) とされる。SOGI とは、性的指向 (好きになる性) と性自認 (心の性) を意味しており、英語にした時の頭文字を取った言葉である。SOGIESC は SOGI に身体的性 (身体の性) と性表現 (自分自身がどのように性を表現しているか) を加えた意味である。

LGBTQ+ がセクシュアルマイノリティを対象としている言葉であるのに対し、SOGI や SOGIESC はセクシュアルマイノリティ、マジョリティ関係なくすべての人を対象としている言葉である。日本労働組合総連合会によると、性の問題はマイノリティなどの特定の人々へのみ配慮が必要な課題ではなく、マジョリティも含めたすべての人の対等・平等・人権の尊重に根ざした課題として捉えるべきであるという考え方である (日本労働組合総連合会 2023)。

2.2 アセクシュアル

アセクシュアルとは、性的指向の一つで、「性的惹かれ (sexual attraction) を経験しない人」 (The Asexual Visibility and Education Network 2019) と定義づけされており、本論文では「他者に対して性的欲求を抱かない性的に惹かれない」と定義付ける。現在人口の 1% に当てはまると言われている (Decker 2015=2019)。

アセクシュアルは恋愛的指向とともに考えられることが多く、恋愛をしない人もいれば、そうでない人もおり、さまざまなラベリングがされている。

2.3 アロマンティックアセクシュアルとそのほかのアセクシュアル

本論文ではアセクシュアルの中でも恋愛感情を抱かない「アロマンティックアセクシュアル」と恋愛感情を抱く「ロマンティックアセクシュアル」の大きく 2 つに分けてみていく。ここでいうロマンティックは性行為や性的魅力が関わる必要のない恋愛関係のこと (Decker 2015=2019) と定義づけし、社会学のロマンティック・ラブの定義とは異なるものとする。ロマンティックアセクシュアルはノンセクシュアルと呼ばれることもある。

アロマンティックアセクシュアルの特徴として『見えない性的指向アセクシュアルのすべて——誰にも性的魅力を感じない私たちについて』では、恋愛衝動がない・誰にも恋愛感情を持たない・独身生活を好む・親しい友人関係に満足している・パートナーシップを楽しんだり関わったりしない・「気分のいい人がパートナーに欲しい」というように一般的な恋愛感情を持つことがあったとしても、実際に恋愛したい相手を見つけようとするのではない (Decker 2015=2019) が例として挙げられている。

ロマンティックアセクシュアルは、対象を問わず、恋愛感情を持つアセクシュアルのことである。アセクシュアル当事者間で頻繁に使用されるセクシュアリティの用語の一部を表 1 に記載する。

表1 用語

アセクシュアル	性的に惹かれない、性的欲求が他者に向かない
アロマンティック	恋愛的に惹かれない、恋愛感情を持たない
ロマンティック	恋愛的に惹かれる、恋愛感情を持つ
デミロマンティック	他者と情緒的なつながり（信頼関係）がある場合のみ恋愛的に惹かれる
リスロマンティック	恋愛的に惹かれるが、その感情を返してほしいとは感じない、またはパートナー関係になることにこだわらない
クエスチョニング	自分の性自認・性指向が決まっていないセクシュアリティ

出典：三宅ほか（2023）

アセクシュアルは「他者に対して性的欲求を抱かない」という性的指向であり、自身のセクシュアルアイデンティティを示す際には上記のような恋愛指向とともに表記されることが多い。しかし、実際はアセクシュアルと表記するだけで「恋愛感情も性的欲求も持たない」と考える人も多く、アセクシュアルの人同士で交流する際に、「アセクシュアルと書いてあるから恋愛感情も抱かない人だ」と認識する人と、「アセクシュアルと書いてあるから性的欲求は他者には抱かないんだろうが、恋愛感情に関してはわからない」と認識する人で、相違が生まれてしまう。これは、アセクシュアルの中でもアロマンティックが多い傾向が関係していると考えられる。表2に示すように、2022年に行われた「アロマンティック/アセクシュアル・スペクトラム調査2022(以下Aro/Ace調査2022)」によると、アセクシュアル当事者の自認はアロマンティックが約45%を占めていることがわかる。アセクシュアルというセクシュアルマイノリティの中でアロマンティックがマジョリティであり、そのほかの恋愛指向はマイノリティのように扱われがちである。

表2 アセクシュアル当事者の自認

性的指向	割合
アロマンティック	44.9%
ロマンティック【恋愛的に惹(ひ)かれる】	11.3%
グレイアロマンティック/グレイロマンティック	8.8%
デミロマンティック	10.2%
リスロマンティック	7.2%
クエスチョニング	9.6%
その他	8.0%

(n=2301)

出典：三宅ほか（2023）

アセクシュアルの生きづらさはアセクシュアルである、という一つの要因だけでなく、恋愛指向や、性別、年齢など様々な要素が絡み合っていると考えられる。アセ

クシュアルなどのセクシュアルマイノリティに限らず、差別・抑圧・生きづらさを考える上で、単一のアイデンティティやカテゴリーに注目するだけでは不十分であると言われている。一口に「マイノリティ」といってもその内情は多様であるからである。アセクシュアル当事者の中でもアセクシュアルというセクシュアリティに加え、性別や年齢、恋愛的指向などの要素によって、「アセクシュアル一般の生きづらさ」として一口に語れない部分が多くある。こうしたいわば「非一枚岩性」を捉える枠組みとして、「インターセクショナルリティ」の視点が有用である。

2.4 インターセクショナルリティ

インターセクショナルリティは、英語で「交差点」を意味するインターセクションからきており、一人一人の社会的立場や、様々な社会問題や社会構造の複雑性や多様性を解きほぐして理解する言葉として使われてきた（下地 2021）。言葉の発祥はアメリカの法学博士である K. W. Crenshaw による論文（Crenshaw 1989）によって提唱された。クレンショーは人権活動家として黒人女性に対する差別を扱っており、論文内でも黒人同性愛女性の受けた差別を例に挙げており、「黒人であること」「同性愛者であること」「女性であること」といったいくつもの要素が交差し、相互に関わっていることをインターセクショナルリティという言葉で示した。

セクシュアリティ・性別・年齢・人種・文化的背景など、さまざまな要素が交差することで一人一人の置かれた立場は異なり、一つの社会問題として括られていたとしても、それが及ぼす影響は立場によって変わってくる。

2.5 インターセクショナルリティの視点から見るアセクシュアルの生きづらさ

インターセクショナルリティは本研究の主眼であるアセクシュアルの生きづらさを考える上でも関係している。アセクシュアルは、セクシュアルマイノリティの中でも認知度は低く人口も少ないため、いわばマイノリティの中のマイノリティと言える。そのため、セクシュアルマジョリティとマイノリティという一つの軸だけでは捉えきることができない。実際、近年セクシュアルマイノリティに対する抑圧や差別などが注目されるようになってきたが、世間一般的に注目されやすいのは LGBT であり、それ以外のセクシュアルマイノリティに含まれるアセクシュアルは注目されづらく、存在も認知されづらい。その理由として、LGBT は制度と衝突するという問題が考えられる。

LGBT の人々が感じている、生きづらさを解消して願いを実現するためには、社会制度と衝突する。例えば、結婚やスポーツ、トイレなどの施設の問題も挙げられる。同性婚は日本ではまだ認められておらず、当事者団体が声をあげて活動している。競技でトランスジェンダーの女性が、身体的な性が女性の大会に出場するかどうかという話題は海外でも大きく取り上げられている。日本では身体的な性で分けられているトイレに対してマイノリティにもマジョリティにも生きやすい世の中になるよう検討され、多目的トイレを活用するなど、制度や施設の壁と戦っている。

一方でアセクシュアルは、そういったはっきりとした制度の壁と衝突することがなく、もちろん人口が少ないということもあるが、大きな社会問題として取り上げられることはない。しかし、制度と衝突することがないからといって生きづらさを感じないわけではなく、

アセクシュアルにはアセクシュアル特有の生きづらさや悩みが存在する。「セクシュアルマイノリティの生きづらさ」というようにまとめた見方では、アセクシュアルの生きづらさを明らかにするには不十分である。

他にも、アセクシュアルの中でも「アセクシュアル」という言葉の定義が恋愛的指向を含めるか否かで当事者間でも一致していないことから、アセクシュアルを自認する人も一枚岩ではない。アセクシュアルの生きづらさは、アセクシュアル一般の生きづらさもあれば、アロマンティックアセクシュアルであるからこそ感じる生きづらさや、ロマンティックアセクシュアルであるからこそ感じる生きづらさ、またそのほかの恋愛的指向であるからこそ感じる生きづらさ、男性であるから、女性であるから、などさまざまな要素が交差して生まれているものである。

本研究では、こうしたインターセクショナルな視点に立って、アセクシュアルの多様な生きづらさを当事者の語りから明らかにする。

3 方法

3.1 概要

以上、セクシュアルマイノリティとアセクシュアルについての定義や先行研究を見てきた。セクシュアルマイノリティが社会的に注目を浴びつつあるとはいえ、アセクシュアルの知名度は低く、「Aro/Ace 調査 2022」のような調査はあるが、量的調査の特性およびアロマンティック・スペクトラム・アイデンティティ別の分析という新規性から、各結果の意味や背景の解釈に限界がある。日本における用語の使い方が多様であることを考慮すると、定義のみで解釈することが妥当であるか留意が必要である。そのため、本調査ではインタビュー調査を実施し、当事者の声から生きづらさを明らかにする。

3.2 詳細情報

調査は 2023 年 11 月 6 日から 2023 年 11 月 21 日にかけて行われた。調査方法としては、筆者がアセクシュアルを自認した 2021 年 3 月にアセクシュアルの人と繋がるために作成し、使用していた X (旧 Twitter) のアカウントで 2023 年 10 月 12 日に自身のフォロワーに向けてインタビュー調査を実施したいという旨のツイートを投稿し、応じてもらえる場合には「いいね」で反応してもらえるよう呼びかけた。その結果、104 名から「いいね」があった。本研究では、そのうち 13 人を「いいね」を押してもらった人のうち早いもの順に、また、身体的性が男女ともに入るよう選び、インタビュー調査を行なった。インタビューは zoom と対面を併用して、各 1 時間を目安に行なった (表 3、表 4)。

表3 調査対象者一覧

	年齢	性自認	身体的な性	職業
Aさん	27歳	女性	女性	会社員
Bさん	22歳	女性	女性	大学生
Cさん	24歳	女性	女性	日本語教師
Dさん	23歳	女性	女性	会社員
Eさん	28歳	女性	女性	事務
Fさん	28歳	女性	女性	保健師
Gさん	21歳	どちらでもない	女性	大学生
Hさん	26歳	ノンバイナリー	男性	会社員
Iさん	20歳	男性	男性	大学生
Jさん	25歳	どちらでもない	男性	大学院生
Kさん	29歳	女性	女性	会社員
Lさん	22歳	女性	女性	大学生
Mさん	26歳	女性	女性	会社員

表4 調査形式

	日時	形式
Aさん	2023/11/6 19時～	Zoom
Bさん	2023/11/6 21時～	Zoom
Cさん	2023/11/7 20時半～	Zoom
Dさん	2023/11/8 19時～	Zoom
Eさん	2023/11/8 21時～	Zoom
Fさん	2023/11/11 15時～	対面
Gさん	2023/11/13 13時～	対面
Hさん	2023/11/13 20時半～	Zoom
Iさん	2023/11/14 15時～	対面
Jさん	2023/11/15 18時～	Zoom
Kさん	2023/11/19 18時～	Zoom
Lさん	2023/11/20 18時～	Zoom
Mさん	2023/11/21 20時～	Zoom

インタビュー形式は半構造化インタビューをとり、生きづらさを感じた場面を深掘りしていく形で生きづらさを探った。インタビュー基本質問項目は以下の通りである。

1. 自分の性的指向によって苦労したこと、悩んだことはあるか
2. それはどのような場面で感じたか
3. どのような時期に感じたか
4. 周りの人間関係（家族や友人など）は影響していたか
5. 環境（職場や学校、地域、時代など）は影響していたか
6. どう対処してきたか
7. 次同じことがあったらどうするか

3.3 調査にあたっての留意点

『性の多様性とその課題に対する一提案』（宮崎 2017）より聖アンドリュース大学の「Protecting Research Subjects, Respondents and Participants」（調査対象者、回答者、参加者の保護について）に従い、以下の5つの点に配慮して調査依頼文を作成し、調査を行った。

1. 信頼を重視し、調査対象者を守ること
2. 対象者の調査による損害を予測すること
3. 情報を開示した上で同意を取り付けること
4. 守秘義務と匿名性を守られる権利を確保すること
5. 回答者の論文への関与

本論文の末尾に、実際の調査時にインタビュー協力者に提示した調査依頼文を付録として掲載している。

4 アセクシュアル当事者の語りとその考察

4.1 アセクシュアル当事者の感じる生きづらさ

13人のアセクシュアル当事者の語りを通して、当事者が感じる生きづらさや葛藤の要因は(1)恋愛関係でのすれ違い、(2)周囲からの無理解による無意識の不配慮な言葉、(3)社会通念の大きく分けて3つに分けられた。

(1) 恋愛関係でのすれ違い

アセクシュアル当事者に「悩んだことや、もやっとしたことはあるか」と質問した際に、一番多く挙げられたのが恋愛関係の話題であった。ここでは、恋人ができた際に起こるすれ違いからくる葛藤や悩みが多く見られた。13人中7人が、悩んでいたことや生きづらさに恋愛関係に発展した相手とのすれ違いを話してくれた。アセクシュアル当事者の悩みは恋愛と結び付けられることが多く、自認のきっかけも恋愛であることが多く見られた。悩みの種類は、恋愛的な価値観の違い、性的接触に関する価値観の違いが挙げられた。

ここでは、7人のインタビューを一部引用する。恋愛関係のすれ違いとみられる箇所や、すれ違いからくる葛藤とみられる箇所には下線を引いている。

自認前のことになるんですけど、お付き合いしてた男性がいてたんですね。その方と20歳超えた男女のお付き合い、してたんですけど、どんどんそういう行為が気持ち悪くなってきたりして、何回も拒否するようになって、仲たがいで別れてしまったということがありました。……そうですねちょうどあのクリスマスの頃に、本当に嫌で嫌で拒否して、喧嘩じゃないですけどあの彼氏の家に行ったときに、拒否して険悪な雰囲気になってもう帰りて家を追い出されるように返されて、その後、なんで私って普通の彼女になってあげられないのかなと思って調べた結果アセクシュアルにたどり着いて、じゃあもうお別れするしかないなと思ってお別れしました。(Aさん)

以前、ありがたいことに恋人ができたことがあったんですが、やはり向こうはその性的な接触をしたい。ただこちらはどちらかという欲求もなければしたくない方に私は入るので、そこで毎回折り合いがつけられずに別れてしまうことが多くて、人としては好きなのにそれでもやっぱり、マジョリティーの方とかいうか、なんででしょうね。その性欲がある方だとやっぱりそれもコミュニケーションの1個となるのでなかなか一緒にいるっていうのが難しくなってしまうことが多くて好きなのにいれないっていうので、やっぱり苦勞というか、悩みはしたことはあるかなっていうのはあります。(Bさん)

世間で言う例えば愛されているっていう状況がそういう肉体的な求められることであったりっていう普通と自分が違うんだなって気づいたときには、やっぱり自分でなんか今はそうは思っていないんですけど、気づいたときはやっぱりちょっと自分でおかしいのかなとか。(Cさん)

彼氏みたいな恋人ができたこともあったんですけど、……私が恋愛に優先順位が低すぎて、全然手を繋がないみたいな感じで向こうはすごく好きだよとか本当にありがたいことに言うてくださるんですけど、その友人として尊敬してるとか人としてすごく一緒にいるのが楽しくて、好ましくは思ってるんですけど、恋愛感情だったりこう、性愛感情ではないので、本当にその気持ちを返せなくて、すごいなんか冷たいやつだみたいなことをすごい言われたりとかして、私やっぱり人のことを好きになれない、自分って何か欠陥してる、心が何か欠陥してるのかなって結構悩む時期もあって、そうですねいやもう付き合いとか一切いいやつになっちゃったんですけど、なんかもしかしたら恋愛できるかもしれないって思ってる、ありがたいことに告白していただいたらあんまり恋愛わかんないんですけどお願いしますみたいな感じで頑張ったこともあったんですけど、やっぱりアセクシュアルっていう部分が歩み寄りが難しくてお別れっていうのが多くて、(Dさん)

手繋いだ時とかめっちゃ嬉しそうな顔するんです。でもこっちは嫌やから、なんかめっちゃ申し訳なくて、その人も絶対自分のことをちゃんと好いてくれて、自然と手を繋ぎたいと思ってくれる人とこの人絶対幸せやって思った時にめっちゃ無理やって。一旦そのゾーンで、2回目の活動としては全部言うっていう。……でもなんか好きになれなかった。めっちゃ好いてくれて、めっちゃ条件はあうんだけど、……やっぱり一緒に布団で寝たい。私は絶対寝れない。私が普通やったら、そんな性的な話をこんな初対面の男性としやんくっていいのに、なんでこんな時喋らないといけないのと思ってしまっって、好きになれなかった。(Fさん)

結構相手は会いたい、できるだけ会いたいっていうタイプで、なんならもう仕事終わりとかにちょっとでも会えるなら会おうよって言うタイプで。私それが全然分からなくて。疲れてるんでしょみたいな。だから多分相手としては、おそらく疲れてたとしても好きな相手と時間を過ごせたら若干キャラになるんじゃないけど、リセットできるんでしょうねおそらく。私多分そんな価値観はなくて、なんでわざわざ疲れることをするんだよさらに疲れるのにみたいな。(Gさん)

誰かと一緒にお付き合いっていう形になったとしても、自分がそういうところで性的欲求を持つ相手だとすると、ちょっとこの先普通の恋愛関係になれないっていうところでやっぱり辛さを感じます。……相手が私自身のことを好きでいてくれた場合、相手のことを思って辛さを感じることもありますし、あと私自身相手からその性的な目を向けられることがすごく苦痛なんですね。なので一緒にいるだけでちょっと辛いし、相手の気持ちを理解することもできないし、私の気持ちも理解してもらえないっていうところで孤独感はあります。(Mさん)

Gさんは「疲れている時に会いたいという価値観が自分にはない」という恋愛的な価値観の違いについて言及しており、Dさんも「人として好ましくは思っているが恋愛感情や性愛を返せない」という相手との感情の違いについて言及していた。

AさんとBさんは「そういう行為が気持ち悪くなってしまって、拒否して別れた」や、「相手は性的接触をしたい、自分はしたくないし欲もないから折り合いがつかなくて別れてしまう」といったような、実際の経験からくる性的接触をしたくない、性欲が他者に向かないが故の、セクシュアルマジョリティ（ここではアセクシュアルではない人を指す）とのずれの違いについて言及している。また、CさんとMさんは「世間でいう愛されている状況が肉体的な求められること、は自分と違うからおかしいのかな」、「お付き合いという形になっても、性的欲求を持つ相手とは普通の恋愛関係にはなれない」というような世間一般的な、恋愛関係を持つことへの不安や悩みに言及していた。

ここでは、それぞれがパートナーや恋人がセクシュアルマジョリティであることを想定しており、マジョリティとアセクシュアルが恋愛関係を持つことにマイナスのイメージを持っていると考えられる。

(2) 周囲からの無理解による無意識の不配慮な言葉

次に、周りに相談した際や、恋バナを振られた際にかけて、他者からの不配慮な言葉や、アドバイスなども悩みや葛藤、生きづらさの要因として挙げられた。当事者から語られた周りからの言葉は悪気のあるものではなく、どれも無理解からくる無意識のものであった。

私クリスチャンで教会に通ってまして、教会と一緒に通ってる、40代か50代ぐらいの女性の方が娘が今度友達の結婚式に出るのっていうお話をしはったんですね。最後に、あなたもいずれねみたいなのを言われて、うんそっかって気分になりました。(Aさん)

周りに相談したりとかもあったんですけど、やっぱり何かその感覚がなかなか受け入れられることっていうのは少なくって、なんだろうな 1回してみれば意外といけるんじゃないっていうのを言われたりとかあとは、私が怖がりすぎんじゃないかなっていうのを言われちゃったりすることが多くて、なんだろう自分が アセクシュアルなことがいけないことなのかなとか、なんで自分はこんなにそういうことに対して興味を抱いたりとか、何か興味を持たないんだろうっていうのを、結構自分でもう責めちゃうことも多くって、ずっと悩み続けてたかなっていうことはあるかなって思います。思い当たるそうですね苦労したこととか、悩みっていうのは、そんなところかなって思います。……家族にも相談したことなくはなかった。けど、何だろやっぱりその人のことが好きじゃないんじゃない本当にみたいなの。本当に好きじゃないんじゃないみたいなの感じで、うん、言われてしまったこともあったかな。(Bさん)

母親とかに初めて彼氏ができて、でもなんかそういうことはしたくないんだよねーみたいな話を結構あけすけにする家だったので、したくないんだよねみたいな話をした時に まだその人のこと本当に好きじゃないんじゃないとか、あともっと本当は好きな人ができるんじゃないみたいな話を母親からされた時に、まあ結構母親の言葉って子供にとっては大きいものだと思うので、やっぱ自分って間違ってるのかなとか やっぱどうなんだろうなっていうふうにならざるを得ない。他者からの言葉では思ったことはありましたね。……アクセクシャルがマイノリティ中のマイノリティって話で、私結構なんかゲイの友達が多いんですけど、ゲイの友達からもまだしてないのとか言われたことは過去にあったので、そのあれでもゲイってマイノリティだしそのマイノリティの人からも微妙に理解されないんだなっていうのは。それこそまあやっぱ高校の生の時とかですね、思ったりとかはしましたねー。(Cさん)

あんま人好きになるとか恋愛感情、ロマンティックセクシュアルみたいな感情もあまり出たことがなくて。でもそれは何か 奥手なだけだよとか、なんか アニメばっか見てるからだとか言われたりして、もうちょっとモヤモヤみたいなのがありました。……好ましくは思ってるんですけど、恋愛感情だったりこう、性愛感情ではないので、本当にその気持ちを返せなくて、すごいなんか冷たいやつだみたいなのをすごい言

われたりとかして、私やっぱり人のことを好きになれない、自分って何か欠陥してる、心が何か欠陥してるのかなって結構悩む時期もあった。.....高校時代に、何か付き合い始める人が増えて、なんか、〇〇 (Dさん) も作りなよみたいなことをすごい言われるようになったのは覚えていて、でも本当に奇跡的に一瞬恋人できたみたいな時期もあったんですけど、どうしても周りの熱量がついていけなくて、どうしてそんなに何か例外に時間とお金をかけたがるのかあんまりわからなくて、そんな時間とお金があったらちょっと好きなアニメのグッズ買いたいと思ってしまって、大学時代もそうですねやっぱ一人暮らしする人とかが増えて花のキャンパスライフみたいな感じで、すごいサークル活動とかも割とこう出会いが活発なところだったので、何か作りなよみたいな飲み会の席とかですごい言われたり、絶対できるよとか、何か励ましのつもりで言われることはあった、あって、それが結構うるさいわみたいな思っていて、やっぱり学生時代が多かったですね。(Dさん)

もやっとしたことは言ったらいっぱいありますよそりゃ。うん一番困ったっていうか、うん。うまくいかなかったことですかね。親がね、そういう、そういうのを認めないみたいなことを言いだして、なんかでも、本物のセクシュアルマイノリティじゃないみたいなよくわからないこと言い出すから、ちょっとね、それもあつたりいろいろセクシュアリティに関係ないところでもやっぱ親とは難しいところがあつたんで、うん、それでちょっと家を出たっていうのがありますかね。(Hさん)

よくある話だと思うんですけど、例えば、そういうことを言った時に、病気なんじゃないかとか、病気って言われることは少ないんですけど、精神年齢が子供やねとか、ピュアやねとか、別に全然ピュアなつもりないんですけど、 そういうことを言われるのは、しんどいって言ったら言い過ぎですけど、もやもやはします。そんなことないねんけど、とは思います。.....結構何か言われちゃう。何かしら一言言われます。軽く言っても、なんか変やなぐらいは言われます。(Iさん)

例えばその小中学校で嫌だったのは、好きな人いるかって言われていないのでいな いっていうふうに答えると、ものすごくしつこくを聞かれたりとかして、結局、好きでもない人の名前を言って会話を終わらせるとかなんかそうするしかなかった (Jさん)

なんかもう興味なさそうな多分感じ取ってるから、でも何だろう、やっぱどうしてもピュアじゃないですけど、子供扱いみたいなのは感じたことあります知らない方がいいよみたいな。(Lさん)

まず彼氏とかそのパートナーとかがまずいないっていう前提で話す人はいないですよ。なので早く幸せになれるといいねとか、いい相手見つけてそれこそ早く結婚して幸せになれるといいよねとか、もう悪意なく言われたりするんですよ。(Mさん)

上記より、周りから言われる言葉は、「本当に好きな人に出会えていないんじゃない」、「本当に好きじゃないんじゃない」、「奥手なだけ」、「結婚して幸せにね」、「病気なんじゃない」、「冷たいやっだ」、「(恋人やパートナーが) いつかできるよ」、「(性の話が苦手、または性的欲求がないなんて) ピュアだね」といったような、悪意のない励ましのようなものが多い。しかし、Mさんのいう「まず彼氏とかそのパートナーとかがまずいないっていう前提で話す人はいないですよ。」という言葉の通り、性的欲求がないわけがない、そんな人はおかしい、といった決めつけや、結婚することが幸せであるというロマンティックラブ・イデオロギーの考え方が根強く残っていることが見てとれる。また、アセクシュアルという存在の認知が広まっていないことから、他者に性的欲求が向かない人の存在がないものとされ、誰しも性的欲求を持っているという前提で声をかけられていると考えられる。

また、Cさんは同じセクシュアルマイノリティであるゲイの友人から「まだしてないの」と言った声かけをされ、同じセクシュアルマイノリティの中でもアセクシュアルは認知度が低く、さらに「セクシュアルマイノリティ」という枠の中でも、他者に性的あるいは恋愛的に惹かれること自体は当たり前であるという認識が前提であり、理解されづらいセクシュアリティであることが考えられる。

生きづらさには性別も関わっていると考えられ、男性を自認しているIさんは「病気」や「なんか変」といった直接的な言葉をかけられており、身体的性が男性であるJさんも「好きな人がいないと言ってもしつこく聞かれた」と深掘りされたように、かけられる言葉には性差があるのではないかと考えられる。

(3) 社会通念

最後に、アセクシュアル当事者の悩みの要因としてあげられるのが、(2)でも出てきた性的欲求がない人はいない、恋愛して結婚することが幸せ、といった社会の中で当たり前だと思われているもの、いわゆる社会通念である。社会の当たり前に悩まされていることが見てとれる箇所を語りから抜粋した。

ドラマとかで恋愛したら必ず行為に至るみたいな描写があるし、女の子は必ず男の子を好きになるものみたいな描写があったりするじゃないですか。少女漫画の中でも、私も好きにならなきゃみたいな。受け入れてあげなきゃ彼氏を！みたいな方に影響を受けてた部分もあったのと、ちょうどその頃、スマホのネットのサイトにエロ漫画の広告が増えてきた時期があって、自分がしてることってこんなに気持ち悪いことなんだって思う影響を受けたことがあります。……相手が年上になれば年上になると結婚は素晴らしいもの出産は素晴らしいものみたいな思ってる方が多い傾向にあるじゃないですか。あんまり対立する関係もよくないなと思うので、そうですねぐらいの相手の感情を認めつつ、私は興味ないけどなって心の中で思うぐらいいいかなって思います。(Aさん)

性行為は、なんていうんですか、自分の責任、自己責任ってちょっとようになってくるから、そうなんか高校生ぐらいまでは、なんかそんな不純なことしちゃいけませんみたいな教育だったのが、なんか大学生になってから急にそれも普通だよねみたいな。普通に愛

わって、何かすごい戸惑いを感じました。(Bさん)

やっぱ大学生でその周りがしてます、それに対して確かに何か、ある意味今までドラマであったり本であったり聞いた話であったりで押し付けられた普通があったので、やっぱしとかないとやばいのかなとか焦った時期とかも微妙にあったんですけど、でもなんか焦りながらもやっぱりしたくないって思い、その気持ちを大切にしたいな一って思ったのがやっぱ大学生あたりなので、割り切れるようになったのは逆に周りがし始めた頃ですかね。自分は完全に違うなっていうふう。(Cさん)

いずれ人を愛して、結婚して女子だったら子供を産んでみたいな人生プランみたいなものがもうドーンとあるので、そこから外れる存在が自分だっていうのを自覚するのが、少しちょっと葛藤しておりました。.....それにすり込みもあったのか、恋愛できないのは悪だみたいな私が何か人として何か欠けてるから、恋愛できないんだみたいな感じで、何か克服しようと苦手な恋愛を頑張ろうみたいにやってた.....結構メディアの影響も大きかったですし、家族とか周りの友人知人からも普通に恋愛は、ある程度の年齢になったらみんな自然と経験して、愛で人は成長するみたいな言葉も何かあると思うんですけど恋をすることで、何か人は成長するんやみたいな刷り込みがやっぱり何かメディアがメインなんですかね結構強かったので、なんかいつまでたってもその前兆がない私って何か成長できないのかなみたいな不安はありましたね。(Dさん)

そうですねなんか人と喋ることによって、より孤独になるみたいな感覚があるかなと思うので、あんまりそういう、恋愛して結婚してっていう普通の人生歩んでるなっていう人とあんまり話したくないなって思っちゃうところはありますねはい。(Eさん)

恋バナは、A型B型みたいな、同じ列だと思うんですよ。天気の話とかと同じ列やから、まあ仕方ないよな 世間話の一環ですよ。私も振るときもあるし、当たり前の話題なんかなっていう感じ。(Fさん)

なんかその、恋愛が当たり前の人たちにとっては、結構相手を大事に思うかみたいなとこ、結構なんかランク付けされてる印象を私が持ってて、なんか最初知り合いから始まって、友達が来て、親友枠みたいなちょっと親愛に近くなって、そのさらに上が恋愛とか愛情みたいなとこになっていて、最終的に家族愛みたいな。最終着地点は確かに分かるけど、そこは分かるけど、この間に挟まる恋愛が親愛とか友情の上位互換なのかって言われると、私それ共感したくね一って。いつも上位互換じゃなくて同等なんだよなって思いながら聞くから、そこの話題が出てきたときに結構差は感じますね。みんなめっちゃ仲良くなってその次の段階が恋人になるみたいな感じになるからなんでって。(Gさん)

この前ツイッターで、最近どうっていうふうになんか聞かれて、恋愛の話しない人、よくわからんみたいな。最近どうっていうのは恋愛の話に決まってるだろう研究の話なんか

どうでもいいんだよみたいなツイッター見かけて、そう考えてるんだって思いました。逆に私の場合もう今やってる仕事とか研究とか趣味とかそういう話の方がみんなにとって聞きたい話題なのかなって感じがするんですけど、割の一部の人にとっては、恋愛の話をしたいってということなんですねその段階でっていうのはちょっとびっくりしました。(Hさん)

他のセクシャリティーの人だったら、なんていうか、結婚したいだったりとか、パートナーと一緒に過ごしたいっていうのがあるので、そうなってくるとやっぱり私がどれだけその友達と遊ぶの楽しいとか何かそういうふうに思っても、それが永遠に続くことは多分ないんじゃないかなってというのが今思ってる不安だったり悩みだったりってところになりますね。(Kさん)

ずっと仲のいい友達とか本当に家族になってしまえば家族っていう関係がベストなんですけど、なかなか簡単にはそうならないかと思うのでそういったところで辛さを感じます。例えばすごく仲のいい友達がいて、一般的には仲のいい友達から恋愛関係になって家族になるっていう形が結構一般とされる。そうじゃなくて本当は仲のいい友達から、家族の家族愛にポンって飛んでいきたいみたいな。一般的には恋愛感情の延長線上に家族のような関係があるかと思うんですけど、多分そこがちょっとつながらないところがあるんですよね。そこが恋愛関係っていうところがやっぱりうまく築けないとその先の信頼関係っていうのもなかなかうまく結べなかったりとかもして。(Mさん)

当事者 13 人中 11 人が社会通念について言及したように、多くのアセクシュアルにとって恋愛や性愛に関する社会の中の当たり前が生きづらさの要因になっていることがわかる。

AさんやBさんのように、「付き合ったら性行為をするのは当たり前」、「大学生になったら当たり前のように周りも性行為をしだす」という性愛に関する社会通念や、Dさん、Eさんのような「恋愛して結婚して子供を産んで、というのが普通の人生」という、未だ社会に蔓延るロマンティックラブ・イデオロギーの概念や、FさんHさんが言及する「恋愛の話をするのが当たり前」という価値観、GさんMさんの言う「仲の良い友達から恋愛関係になって家族になる」という家族愛になるまでの過程に対する疑問など、さまざまな社会通念に衝突していることが考えられる。特にアセクシュアルは、性的欲求が他人に向かないことから性愛に関して生きづらさを感じていると考えられ、恋愛の中に性行為が含まれることが社会で当たり前とされている以上、恋愛と性愛の悩みは切っても切れないものであると考えられる。

4.2 生きづらさへの対処と諦め

これまでアセクシュアルの感じる生きづらさの要因を当事者の語りから見てきた。その際に当事者はそれぞれ対処法を考えて行っているが、アセクシュアル当事者が恋愛に関して生きづらさを感じた際に行ってきた対処法から、セクシュアルマジョリティに対する諦めが見てとれた。本節では、当事者が今まで行ってきた対処法や、「カミングアウトしたらど

ういう反応を周りにとってほしいか」という質問の回答から見られるマジョリティ側の対応を考える。

まずは生きづらさを感じた際にとってきた対処法から見ていく。

(あなたもいつかは結婚するのねと言われ) その場の空気を壊さないように煙にまぐとか、そうですね。いつかね相手がいればねみたいな感じでさらっと流し、別の話題に切り替えちゃったりっていうことが多い (Aさん)

(恋愛の話を振られ) なんかそういうの好きじゃないんだよねって言っちゃうことが多いかな。やっぱり何か架空のね、作り話したところでどうせばれちゃうし、なんかその話をあんまり長引かせたくないからっていうのもあったり、自分のことを深掘りされたくないっていうのもあるから、興味ないかなって言って、もうさっさと終わらせちゃいますね私は。(Bさん)

恋バナするときはなんかノンセクシャルであれなんですけど、知識だけは妙に持つてるタイプで。その夜のことに對して誤魔化せる。誤魔化せるとか、うん、誤魔化しちゃってますね。そのまあそんなもんだよねーとか言ってなんかそうだよーとか言って誤魔化して、なあなあにしちゃうことが多いかもしれないですね、恋バナになると。(Cさん)

世間話で、普通の会話の中でも今彼氏いるのとか聞かれていないとかいうとそうなのなんで一みたいなってなんか別に話したくなくても輪に入れてくれるのはありがたいんですけどちょっとしんどいなって思う子に誤魔化さざるを得ないみたいな。(Dさん)

私の場合は多分ごまかすとか、そうですねな彼氏いるのみたいに聞かれたら、どうですかねみたいな、なんか絶対答えないみたいな感じで対応しちゃうと思いますね。(Eさん)

なんかしっかりアセクシャルとか、いわゆる用語みたいなのを出して説明することはなくて、.....今はもう恋愛の優先度低いとか、別に一人でもいけるみたいな感じで、一人楽しいみたいな感じにしています。(Gさん)

(病院行ったら?と言われ) 確か切り抜けてるかわかんないですけど、僕が困ってないから病院行かなくてもいいやんって言って納得っぽいことはしてくれた (Iさん)

私の場合は最近のっていう話になった瞬間にもう勉強とか研究の方の話をしちゃうので、恋愛とかそういう話になりにくいように、もしかすると自分の方から話を誘導してるのかもしれないですね。(Jさん)

言うときもあるけど、何か言ってもわかってくれないだろうなっていうのはその関わりの中で、なんか、感じて、だからケースバイケースですね。でもはっきり言うときもあります。なんかどそうですね。若い若いときっていうか、中学とか高校とか大学も行ったけど、なんていうか、気づいてすぐだったりとかまだ何もよくわかってない頃は、何か曖昧にしてたんですけどだんだんそのアセクシュアルとかロマンティックとかいろいろ言葉を自分で調べたり何なりして知識がついてきたときに私だけじゃないんだっていうのもあるし、ちゃんと言葉としてあるっていうのも結構その自分の中で自信になっていて、いや私はきっぱり興味ないですっていうのは、割と社会人になってきてから、どんどんその自分の思い通りに発言ができるようになってきたかなっていうところあります。(Kさん)

(恋愛の話を振られ) 多分、はい。別に興味ないかなって感じで流してました。(Lさん)

(性行為をする際に) みんなこんなもんなのかなって思って誤魔化してたんですよ。(Mさん)

上記より、恋愛関係の話を振られた際にアセクシュアルという言葉伝える当事者はおらず、興味がないというようにやんわりと伝えたり、ごまかしたりする対処法が多く見られた。この背景には、アセクシュアルと伝えても相手に通じないという考えや、自身のセクシュアリティを伝えても理解してもらえないといった諦めがあると考えられる。Kさんのように「何言ってもわかってくれないだろうな」と感じるアセクシュアルが多くいることが対処法から見てとれた。実際に、Jさんは

そうですね、(アセクシュアルという) 単語を使ってもよくわかんないなっていうふうに思われそうなので、何かよくわかんない言葉を使ってくるんだこの人って思われると、その人にとって自分の信頼度が下がるというか、何だこの人みたいな感じになりそうなのがして、それよりは、相手にもわかりやすいような、うん。言葉で言った方がいいのかなっていう感じがして (Jさん)

というように、相手に通じないという前提で考え、対処されていることから、アセクシュアル当事者の中でアセクシュアルは社会で認知があまりされていないと考えられていることがわかる。

また、セクシュアルマジョリティと恋愛関係に発展した際に感じた悩みや、発展することを感じる不安を聞く中で、セクシュアルマジョリティの理解に対する諦めを感じ、追加で「価値観をすり合わせることはできると思うか」という質問をしたところ、以下の回答が得られた。

私はそこはすり合わせられないと思ってます。例えば、アレルギーの人に1回なら食べれますかって聞いても絶対無理じゃないですか。同じようなものだと思うんです

ね。セクシャリティーと別ですけど、無理なものは無理やなと思っています。(Aさん)

いやもう思わないです。無理。無理だなんて思う。本当に無理だなんてなったし、だんだん何て言うの、それを考えてること自体がいつももう嫌になっちゃうっていう。その、体の具体的なことを想像しちゃうじゃないですか。すり合わせをすると、なんかもう、それがだんだんもう、嫌になっちゃうって。なんか私にはこんなことできません。無理だなんて、大体いつも思っちゃうから多分擦り合わせようとはしてきたけど、多分もう厳しいだろうなっていうのは、うん。(Bさん)

このように、すり合わせはできないと感じる結果となった。この質問からもアセクシュアル当事者はセクシュアルマジョリティと理解し合うことはできないという諦めを感じていると考えられる。

4.3 アセクシュアル当事者が求めること

アセクシュアル当事者が生きづらさを感じる要因は大きく3つに分けられたが、恋愛について相談した際に周りから言われる言葉や、社会通念に影響された周りからの言葉など、周囲から無意識に発せられる言葉に生きづらさや悩みを抱えている当事者が多くいると考えた。そのため、インタビュー内で「もし、周り(マジョリティ)に「恋愛や性愛に興味がない」、「アセクシュアルである」ということをいった際どのような反応をしてほしいか」という質問を追加した。その結果、当事者内ではマジョリティにしてほしい対応や反応が共通していた。

まずは、その結婚したくないとかあまり意味がないって言ったときに、そうなんだね、あんたはそう考えるのね。ていうふうに思ってもらうのがいいなと思います。とか例えばあの、子供は産みたくないですって言って、えでもかわいいのにみたいなんじゃなくて、そうなんやぐらいのさらっと流してくれる感じでいいかなと思っています。そうですね、社会的にも何か大きな、SNSの昨日一昨日ぐらいからSNSで20代で行為を経験したことない人が4割なんておかしいみたいな投稿してる芸能人がいて、ちょっとわってなったみたいで。なんかそういう空気がなくなればいいなと思いますね。(Aさん)

そうですね。なんかこうしたらいいんじゃないとかって言って欲しいっていうのはもちろんあるんだけど、なんだろう、その相談してるときって大体やっぱ、そういうできないとかそういうことに対して不安を感じてたりとか、なんかしんどさを感じてることって多いから、まずは一旦その感情を受け止めてほしいなって思う。なかなかね、相談した子が普通にそういうの全くもう何かできるとか、そういう欲がある子だったらなかなかこの感情って、やっぱり理解しがたい感情だろうなというのは思うので、そんなに、何だろうな。私の考えを認めてくれとまでは言えないんだけど、とりあえずこんな考えもあるんだなって。そうなんだねってなんか、そう感じちゃってるんだねって。でも、悪いことじゃないからねっていうのをちょっと多少は受け止めてもら

えたら嬉しいなって。もう否定をしないで欲しいっていうのがあるかな。うん。っっていうぐらいかな。うん。(Bさん)

そんなに別に関心を持ってほしいとか、完全な理解をしてほしいっていうのは正直なくて、ただ放っておいてほしいなっていうのが一番気持ちとして大きいですね。……なんですかね、助け舟が欲しいわけでもなく。そういう人もいるよねで終わる、ただ言葉としてはこう広まっていて欲しくて、ノンセクシャルアセクシャルって言えばこういう人だっていうのがすぐわかって、ああそうだねおしまいっていう風にこう何かしてほしいじゃなくて何もしないで欲しいっていうのが一番理想だなあっていう風に思ってます。(Cさん)

そうですね。なんか対して、驚きもせず別に共感してほしいとか、そうなんだ。そういう人もいるよねぐらいの反応で十分嬉しいなど。すいません。別にわかる私も実はアセクシャルなんだよねとかなれば嬉しいって嬉しいんですけど、そこまで別に共感が欲しいわけでもなくて、かといって全部否定されてまだ良い人に出会ってないだけによって言われ続けた過去もつらかったのになんか、実は私、人に性的関心がなくてとか言ったときに、そうなんだ、全然ありだよねみたいな、それぐらいの深刻でもなく軽くぐらいになればいいのかなと思ってます。(Dさん)

そうですね。なんか理想は、そもそも彼氏とかそういう話を振ってこないのが理想なんですけど。うちなんか恋愛経験とかあんまりないし、恋愛の話とか好きじゃないんだよねって言ったら、そうなんだって言って追求しないでくれるとか。(Eさん)

うーん。まあでもとりあえず否定から入らないでほしい。それはマイノリティとかマジョリティとか関係なく、コミュニケーションとしてその方がありがたい。なんだろう、別になんか個人と個人の境界線がしっかりできてたら別に会話する分には問題ない。だからその境界線がしっかりできてるかどうかは大事だと思います。まあ踏み入っていいラインがあるよっていう方法もね。多分マジョリティだと自分が思ってる人たちも見方変えれば全然マイノリティだから。切り口が違うだけ。まあ知ってる人が増えたら楽になりそうな気はなんとなくしますけど。(Gさん)

理想は、そういう人なんだ。そうあればいいんですけど、まあならない。今は変な空気にしかならない。(Iさん)

そうですね。一番いいと思うのは、そうなんだっていうふうに言ってもうその話はしないっていう感じですかね。別の話だとか、あるいは自分の恋愛関係の話とか、別の人の恋愛関係の話はいいけど、こっちのことを引き出さないように、聞こうとしないで欲しいみたいな感じです。(Jさん)

なんかもう興味がないって言ってるから、そうなんだで終わらしてもらったら一番助かるってのはありますね。変に深掘りされるより、もうそのまま話し終わらしてほしいみたいな感じですね。なんかよくそんなことないよねないでしょみたいな、何か言われたりとか本当はいるんでしょうとか何かそういうふうに分かれるのが嫌だから、最初にはっきり言わないって気持ちで、うん、いないっていいって言います。
(Kさん)

でもシンプルにそうなんだで終わってほしいです。……興味ないって言ったらそれ以上話すことないんで、たまにされてもって感じで。(Lさん)

上記より、回答として共通していたのは「そうなんだで終わってほしい」、「否定しないでほしい」、「追求しないでほしい」というものであった。Dさんのように「まだ良い人に出会ってないだけ」と言われたり、Kさんのように「そんなことないよね」と言われたりするなど、そもそも「恋愛や性愛に興味のない人間など存在しない」という前提があることが見てとれる。当事者が求める「否定しないでほしい」とは、この前提を見直してほしいということであると考えられる。Bさんは「認めてくれとまでは言えない」、Cさんは「関心を持ってほしいとか、完全な理解をしてほしいというのは正直ない」と言っており、マジョリティに共感や理解を求めるのではなく、アセクシュアルという存在がいることを知って、受け入れることを求めている。

マジョリティからすると、他人に性的に惹かれないアセクシュアルはBさんの言うように「理解しがたい感情」と考えられるが、Gさんが言うように「多分マジョリティだと自分が思ってる人たちも見方変えれば全然マイノリティだから。切り口が違うだけ」なのである。人間は誰しもさまざまな要素が交差しており、マジョリティな部分もマイノリティな部分も持っている。アセクシュアルはセクシュアリティではマイノリティであるが、その他の面でもマイノリティであるわけではない。また、セクシュアリティがマジョリティな人間であっても、他の面ではマイノリティな部分があるかもしれない。マジョリティ側の人間は、マイノリティを他人事であると思えば世間一般的な大多数と違うという理由で否定するのではなく、「そういう人もいる」と受け入れる姿勢が求められている。

おわりに

アセクシュアル当事者にインタビュー調査を行い、生きづらさの要因が(1)恋愛関係でのすれ違い、(2)周囲からの無理解による無意識の不配慮な言葉、(3)社会通念の3つ挙げられた。さらにはこれらの3つは深く繋がっており、恋愛関係のすれ違いを他者に相談して心無い言葉をかけられる、他者に向けられる言葉は社会の当たり前前に則った言葉である、といったように、さまざまな要素が交差してアセクシュアル当事者の生きづらさを構成していることが見てとれた。その中でも、特に他者からの言葉に苦しめられる当事者は多く、社会の「恋愛して結婚することが幸せ」、「恋愛をしたら絶対に性的接触が伴う」といった当たり前前からくる周りの言葉に深く傷つけられてきた。実際私も周りに話した際には、「そんな人いないよ」や「今はまだ若いからどんどん考え方も変わるし、そんな人じゃないよ」という

アセクシュアルという存在自体を否定する言葉や、社会の当たり前を押し付けようとする言葉をかけられることが多かった。このようなアセクシュアル当事者として周りからかけられる言葉は、悪意を持って言われているわけではなく、自分に対する心配や励ましの言葉から、無意識に発せられるものであった。しかし、その際いつも考えることは、なぜ社会一般的な考え方でないといけないことのように扱われるのかということであった。インターセクショナル리티の考え方をを用いると、人間は誰しもマジョリティな部分とマイノリティな部分があり、さまざまな要素が交差し合って一人の人間を構成している。マイノリティな部分があることは悪いことではなく、人と違うということが当たり前なのである。

多様性が謳われる近年、セクシュアルマイノリティも社会で大きく取り上げられることが増えたが、無意識にセクシュアルマジョリティから無配慮な言葉や否定的な言葉をかけられる機会も増えた。アセクシュアル当事者も、表立った差別や偏見は少ないものの、悪意のない無配慮な言葉に苦しめられている。セクシュアルマジョリティには、セクシュアルマイノリティに対する理解や共感が求められているのではなく、自分と違うセクシュアリティで合っても、「そういう人もいる」という程度に受け入れる姿勢が求められている。

また、セクシュアルマイノリティも他の面ではマジョリティであるように、セクシュアルマイノリティ・マジョリティ関係なく、お互いが自分や社会と違った部分があっても、受け入れ合う姿勢を持つことが、より良い社会を作る第一歩になると考える。

[付録]

調査依頼文

同志社大学社会学部社会学科4年の林来美と申します。

この度、卒業論文でアセクシュアルの生きづらさについて明らかにしたく、研究を進めているところです。本研究では、アセクシュアルの人が日常的に感じる生きづらさはどのようなものか、どういった場面で困ることが多いのかを明らかにすることを目的としています。自分自身もアセクシュアル当事者であることから、生きづらさを感じる場面が多くあり、アセクシュアルという存在や、アセクシュアルであることから生まれる生きづらさを世の中に知ってほしいという思いがあり、そのためにも当事者の方から今までの経験や思いをお聞きしたいと考えています。

皆さまの置かれている状況を十分に配慮して質問をさせていただきますが、生きづらさに関する質問ということもあり、稀にデリケートな内容に触れなければならないこともございます。個人が特定されないよう論文内では匿名で表記いたします。どうしてもお話しにくい場合は、無理にお答えいただかなくても結構です。気分がすぐれない場合には、休憩や中止はいつでも可能です。調査の内容は、録音させていただきますが、取得したデータや個人情報、研究目的以外には使用いたしません。データの保管には万全を期し、第三者がアクセスすることはありません。番号付を行うとともに匿名化いたしますので、研究を発表する際にも個人情報は守秘されます。データは2月末まで保存し、その後破棄いたします。

この研究に参加するか否かは任意であり、参加しなかったことで皆さまが不利益を受けることは一切ございません。また、一度同意した後もいつでも同意を撤回することができます。

完成した論文は論文公表前にご覧いただき、ご迷惑になるところについては削除いたします。

同志社大学社会学部社会学科4年立木ゼミ所属 林来美

[謝辞]

最後にはなりましたが、ご指導賜った同志社大学社会学部社会学科教授立木茂雄先生、また、終始温かいご助言をいただいた TA の藤本慎也さん、本研究を進めるにあたり調査にご協力いただいた調査対象者の皆様に、心より感謝申し上げます。

[文献]

- Brake, Elizabeth, 2012, *Minimizing Marriage: Marriage, Morality, and the Law*, Oxford: Oxford University Press. (久保田裕之監訳, 2019, 『最小の結婚——結婚をめぐる法と道徳』白澤社.)
- Crenshaw, Kimberle Williams, 1989, “Demarginalizing the Intersection of Race and Sex: A Black Feminist Critique of Antidiscrimination Doctrine, Feminist Theory and Antiracist Politics” *University of Chicago Legal Forum*, 1989(1): 139-167.
- Decker, Julie Sondra, 2015, *The Invisible Orientation An Introduction to Asexuality*, New York: Skyhorse Publishing. (上田勢子訳, 2019, 『見えない性的指向アセクシュアルのすべて——誰にも性的魅力を感じない私たちについて』明石書店.)
- Giddens, Anthony, 1992, *The Transformation of Intimacy: Sexuality, Love and Eroticism in Modern Societies*, Cambridge: Polity Press. (松尾精文・松川昭子訳, 1995, 『親密性の変容』而立書房.)
- 加藤秀一, 2017, 『はじめてのジェンダー論』有斐閣.
- 三島早希, 2023, 「現代日本における恋愛伴侶規範性——アロマンティック/アセクシュアル当事者へのインタビューを通じて」『ジェンダー&セクシュアリティ』(18): 129-134.
- 三宅大二郎・今徳はる香・中村健・田中裕也, 2023, 『アロマンティック/アセクシュアル・スペクトラム調査 2022』アロマンティック/アセクシュアル・スペクトラム調査 2022 単純集計結果報告書, As Loop.
- 宮崎哲, 2017, 「性の多様性とその課題に対する一提案」『2016 年度同志社大学社会学部社会学科立木ゼミ卒業論文集』.
- 日本労働組合総連合会, 2023, 「ジェンダー平等・多様性推進」, 日本労働組合総連合会ホームページ, (2023 年 12 月 18 日取得, <https://www.jtuc-rengo.or.jp/activity/gender/lgbtsogi/>).
- 下地ローレンス吉孝, 2021, 『「ハーフ」ってなんだろう?——あなたと考えたいイメージと現実』平凡社.
- The Asexual Visibility and Education Network, 2023, “The Asexual Visibility and Education Network,” (Retrieved December 18, 2023, <https://www.asexuality.org>).
- 吉澤夏子, 2012, 「ロマンティック・ラヴ・イデオロギー」見田宗介・大澤真幸・吉見俊哉・鷺田清一編『現代社会学事典』弘文堂, 1364.